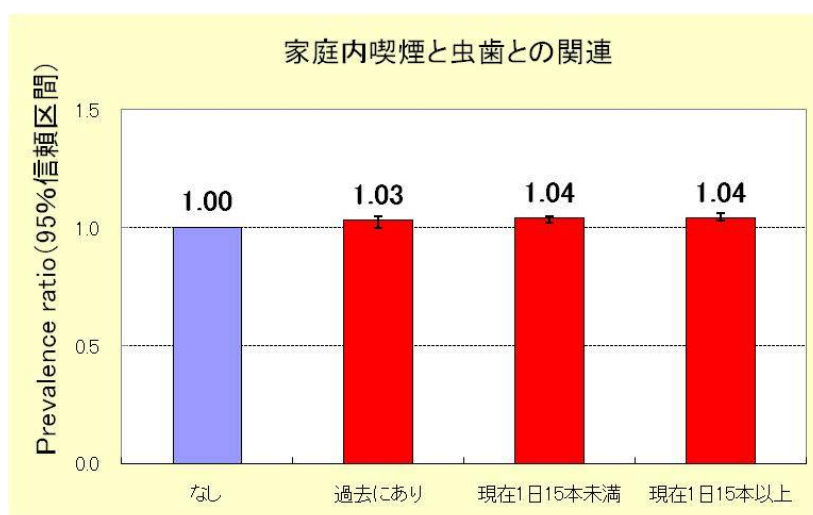


受動喫煙とむし歯との関連

背景：受動喫煙が虫歯のリスク要因かどうかの議論が続いています。日本人小児における過去の研究結果では、一つでは受動喫煙と虫歯との正の関連が報告されていますが、もう一つの研究では関連は認められませんでした。家庭内での受動喫煙と虫歯との関連について調べました。

方法：琉球小児健康調査に参加した子供のうち、学校歯科健診のデータがあり、解析に用いた要因にデータ欠損のない20,703名を対象としました。治療済みの虫歯、または未治療の虫歯がある場合を虫歯有りと定義しました。性別、年齢、居住市、歯磨き頻度、フッ化物の使用経験、砂糖摂取、両親の教育歴を交絡因子として補正しました。

結果：家庭内喫煙のない群を基準として、過去に家庭内喫煙があった場合、現在1日15本未満及び現在1日15本以上の家庭内喫煙のある場合のPrevalence ratioはそれぞれ1.03、1.04、1.04と、統計学的に有意な正の関連を認めました。受動喫煙の蓄積曝露量を評価す



るため、家庭内喫煙のパック年を算出したところ、パック年の増加に伴って、虫歯の有症率は有意に高まり、その傾向性P値も統計学的に有意でした。永久歯と乳歯とを別々に解析した場合も同様に、家庭内喫煙と虫歯との間に、有意な正の関連がありました。

結論：家庭内喫煙は、子供の虫歯と関連があるのかもしれませんが。さらなる調査が必要です。

出典：Tanaka K, Miyake Y, Arakawa M, Sasaki S, Ohya Y. Household smoking and dental caries in schoolchildren: the Ryukyus Child Health Study. BMC Public Health. 2010; 10: 335.